令和２年度　「特色ある学校づくり対策事業」実践報告

ふるさとを愛する子ども
感性豊かな子ども
しっかり考える子ども
たくましく元気な子ども

佐世保市立小佐々小学校

所在地　佐世保市小佐々町田原２９０－１
校長名　松尾　英治
児童数　２０６名　　学級数 １０

１　テーマ

『自然・地域体験的活動を通した心豊かな児童の育成と学力向上』

２　目　的

本校は佐世保市の西端に位置する小佐々町にあり、海・川・山と豊かな自然に囲まれている。また、昔から地域住民と児童との結びつきが強く、地域の人々の温かい支援に支えられながら教育活動を展開している。その豊かな自然や、地域の力を活用し、本校のめざす児童像である『ふるさとを愛する子ども　感性豊かな子ども　しっかり考える子ども　たくましく元気な子ども』を育成する。

（１）豊かな自然や地域の人々との関わりを大切にしながら様々な体験活動やあいさつ運動を導入し、児童の豊かな人間性を育てる。

（２）確かな児童の実態把握に基づき、目標を明確にした指導及びスキル学習や読書活動の充実を図り、学力向上をめざす。

３　実践内容

（１）自然・地域体験活動・あいさつ運動

①さつまいもの植え付け・収穫

６月１０日に、２年生の児童、地域の方２名とともにさつまいもの苗の植え付けを行った。植え付けの前は地域の方に畑の準備をしていただいた。始めに、地域の方に植え付けの仕方を教わってから活動した。植え付け後は、収穫

するまで、さつまいもの生長に合わせて定期的に成長の様子を観察したり、草取りをしたりすることで、自分たちが植えたさつまいもを育てる喜びと大変さを実感することができた。

１１月５日に体験活動支援の地域の方のご指導のもと、いもほりを行った。事前に地域の方がさつまいものつるをはらってくださっていたおかげでさつまいもがとても掘りやすい状態だった。さつまいもをたくさん収穫することができたので、児童の家へ持ち帰ることもできた。振り返りの時間には、おうちの人に作っていただいたさつまいもをつかった料理等の話題で盛り上がっていた。児童は、植え付けから最後まで収穫の喜びと地域の方への感謝の気持ちを抱きながら活動することができた。

②田植え・稲刈り

本校では毎年、地域の方に水田をお借りし、管理を委託する方法で、５年生がもち米を栽培している。

今年は、６月９日に田植えを行い、１０月８日に稲刈りを行った。児童は、田植え・稲刈りともに地域の方の細かい指導を受けながら、意欲的に活動した。安全上の理由から、除草や日常の管理については水田を管理している方にお願いしているが、稲の生育状況は、数回、校外学習でに確認をしたり、近くを通った時に確認したりした。

今年は約２１０㎏のもち米を収穫することができ、その一部は幼稚園や保育所等に寄贈した。例年であれば、ＰＴＡ主催の「もちつき会」において、地域の方々や保護者と一緒にもちつきを行っていた。しかし、今年度は、感染症拡大防止対策のため、「もちつき会」が開催されなかったため、ＰＴＡの厚意で、全児童に収穫したもち米でついた「もち」を配付した。

③「おさかなあいさつ」運動

海光る町学園の三校の生活指導部で話し合い、共通理解・共通実践ができるあいさつ運動としてスタートし、現在もコミュニティ・スクールの大きな柱の一つとして継続し、取り組んでいる。「おおきなこえで、さきに、かおをみ

て、なまえをよんで」の頭文字と小佐々町の象徴である魚を絡めて「おさかなあいさつ」運動と名付け、本校の伝統である朝のなかよし橋での「あいさつ運動」等の充実を図りながら、日々のあいさつが少しでも向上するように取り組んでいる。

２月１９日､かがやきっ子会議をオンラインにより開催し、三校の児童生徒が、共通実践事項である「メディアの使い方」「おさかなあいさつ」等についての取組の成果や課題を話し合った。かがやきっ子会議での協議を生かし、今後も、学校、家庭だけでなく、地域の方へのあいさつも意識してできるように継続して取り組んでいきたい。

⑤保幼小連携活動

保育所、幼稚園ともに本校と近いという好条件を生かして保幼小連携カリキュラムにのっとり、年間を通じて積極的に活動を行っている。
今年度は、コロナ過のため、具体的な取組はできなかった。

（２）児童の実態把握に基づく学習意欲を高め、基礎力の定着を図る取組

令和２年１２月に実施した国語科と算数科の標準学力検査の分析結果を基に、昨年度に引き続き、指導法の改善を行いながら、指導を進めてきた。その柱は、目標を明確にした指導及びスキル学習による基礎基本の定着、読書活動の充実を継続して取り組んできた。

①スキル学習の充実

全学年、木曜日の朝の時間を利用して基礎的計算技能の定着及び思考力を高めるための取組を続けている。それぞれの児童の力に応じてスモールステップで学習を進めることができるようプリントを準備し、地域の学習ボランティア（丸付け先生）の力を借りて進めている。児童一人一人が目標をもって意欲的に取り組む姿が見られた。今年度は、コロナ禍のため、開催できる回数は少なくなった。

②読書活動の充実による豊かな心の育成と言語力向上

地域や保護者のボランティアグループだけでなく、担任以外の教員や高学年が低学年に読み語りをするなど、多様な形での読み語りを定期的に実施している。今年度は、図書委員による昼休みの読み語りも数回実施した。図書室の環境整備や本の修理がなされ、児童が読書活動により意欲的に取り組めるようになり、図書室の貸し出し冊数は伸びた。児童の言語環境を整え、豊かな心を育成できるような掲示物を工夫している。

③標準学力検査を活用した実態把握と指導法の工夫

１２月に全学年を対象に国語科と算数科における標準学力検査を実施した。調査結果を分析し、それぞれの学年・学級・個々の児童における課題を明確にし、授業改善と学習指導の工夫改善への取組を継続している。１２月の調査結果を昨年度と比較し、各学年の課題も明確になった。次年度の指導にも生かしていきたい。

また、分析結果を基に個別指導や授業改善にも役立てている。全職員が分析結果を共有することで、各学年の系統を意識した指導に当たることができている。次年度も標準学力調査を実施したい。

（３）コミュニティ・スクールへの充実・発展

小佐々地区小中３校は、小中一貫型コミュニティ・スクールとしての取組を本格的に進めている。広報の一環として、看板を掲げ、地域へカレンダー（ＣＳカレンダー）や広報チラシ（ＣＳだより）を配布した。また、「おさかなあいさつ」運動の推進のために幟を掲げたり横断幕を取り付けたりすることで啓発を図った。継続して学校・地域が一体となって取り組んでいるところである。

小中連携の行事や乗り入れ授業の取組も実施している。小中一貫型の学習を進めるために作成したカリキュラムをもとに、中学校の教師が、６年生の外国語科、理科、算数科の学習に入り、専門性を生かした指導を行い、児童の学習意欲も高まった。今年度はコロナ禍のため、実施回数は例年よりも少なかったが、来年度は更に深まりのある実践につなげていきたい。